

# ふるさとわがまちづくり

## 青木自治区

### ◆「青木」の由来

青木小学校を中心とする標高50～100メートルの大地は、かつては青木原と呼ばれる開拓地で野菜や果樹などが作られていました。

この地区の開拓は、戦時中の食糧増産が契機となり、疎開者と戦後の入植者によって行なわれました。多くの人達の汗が流されたこの台地は、今、スマートな住宅が建ち並び、当時の苦勞を知ることではできません。

青木自治区は、この台地の西端に位置し、北から南へなだらかな丘陵地に家が建っています。青木町は1丁目から5丁目までありますが、1～4丁目までは青木台自治区そして、5丁目が青木自治区です。

ここが、開発され始めたのは昭和43年頃からです。そして、10年後の昭和53年には、330世帯、平成20年現在502世帯と、大きなまちに変わりました。

このあたりは旧越戸に属し昭和42年、自治区として独立するまでは越戸一区（現在の平戸橋一区）との繋がりがありました。

区民の集会施設がない、子どもの遊び場を確保したい、区民の親睦を図る計画を立てなくては……と、自治区として独立した当初は、多くの課題を抱えていました。

しかし、52年には市の信託地を利用して子ども達の遊び場と約80㎡の児童館が建設されました。その後、平成11年に、現在の自治区集会施設青木ふれあい会館が建設されました。

集会の場ができたことで、区民のふれあひも年ごとに高まりました。お父さんを中心とした青木友の会、お母さん達の婦人会、そして、子ども会と、先輩の自治区に負けまいとする楽しいまちづくりが進められています。

新しいまちだけに、古いきたりといったものは何もありません。それだけ自由にまちづくりが進められる反面、区民の合意を得ながら物



事に対処する難しさもあります。しかし、会議を開くとなるとなかなか時間の調整が取れなくて、苦勞は多いといいます。“短い時間で、より実りある話し合いを”。このことが青木自治区設立当初の課題でありました。

### ◆ まちづくり活動

青木の地で生まれ育ち、この地を離れ、ふるさとが青木……と言われる町  
青木自治区では、伝統的行事で、夏の盆踊りは、青木友の会・子ども会・ジュニアクラブのバザーなど、盛りだくさんのメニューで皆さんを迎えています。

秋の祭りでは、3日前から、もち米の洗米を行い、2日目が餅つきで子どもたちに古い餅つきの体験を行い、3日目は子ども会による町内の御輿巡行、午後は餅まきと伝統的行事で盛り上げています。



青木ふれあい会館



青木自治区盆踊り大会

### ◆ 現在の課題

- ① 子供の減少(少子化)
- ② 団塊の世代の人たちが、15年後には、75歳と高齢化に入り、1人暮らし・夫婦のみの世帯が急増
- ③ 自治区行事では、中間層(20歳台から40歳代の参加者が少ない。)
- ④ 自主防災・防犯のマンネリ化

### ◆ 将来に向けた活動

- ① 少子化・高齢化による自治区行事の見直し
- ② 高齢化対策として、支援組織の充実・憩いの家の開放による1人暮らしの方の不安感を軽減
- ③ 20歳代～40歳代 男女の諸行事の参画
- ④ 自主防災・防犯組織を別組織(自治区と連携)の活動

- ⑤ 趣味・特技を披露する文化行事の推進

### 青木自治区データ (H20.4現在)

世帯数：502世帯  
：303世帯(昭和51年)  
組数：30組  
面積：0.12Km<sup>2</sup>  
自治区たより：「ふれあいだより」  
年4回発行  
回覧：月3回  
ちびっ子広場：3箇所  
防犯灯設置箇所：78箇所  
小学校：青木小学校区  
自治区会館：青木ふれあい会館 (TEL45-3952)